

# 日本消防



● 第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会

12  
2015

□ 絵	第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会	平成27年10月29日(木)~30日(金)	於	佐賀市文化会館
	第31回日中消防協会定期協議会	平成27年11月 9日(月)	於	ホテルオークラ
	第7回日中韓消防協会会議	平成27年11月10日(火)	於	ホテルオークラ

巻頭言 「地域の防災で消防団が中核的な役割を果たすために」…(公財)福島県消防協会 会長 鈴木英雄 …… 1  
 日消の動き 「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」……………(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文 …… 3  
 第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会 ………………(公財)日本消防協会 …… 4  
 消防団防災学習・災害活動車両交付事業 ………………(公財)日本消防協会 ……13  
 ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」佐々木敦朗消防庁長官 出演 ………………(公財)日本消防協会 ……16  
 特別表彰まといを受章して「安全で安心なまちづくりを担う消防団として」  
 ……………… 岡山県津山市消防団 団長 土肥祥嗣 ……18  
 東西南北(兵庫県)「守る命、輝く活動」…………… 芦屋市消防団 団長 岸野雅信 ……20  
 東西南北(京都府)「防火の要は予防消防」…………… 与謝野町消防団 団長 澤田尚登 ……22  
 東西南北(佐賀県)「自然豊かな郷土『鹿島』を守る」…………… 鹿島市消防団 団長 小池幸照 ……24  
 シンフォニー(宮城県)「女性消防隊の一員として…雑感」  
 ……………… 名取市消防団 女性消防隊 隊員 伊藤明美 ……26  
 シンフォニー(石川県)「笑顔でご奉仕」…………… 七尾市第1消防団本部 部長 田治康子 ……28  
 「機能別団員導入 そして愛される消防団へ」…………… 茨城県龍ヶ崎市消防団 ……30  
 「大地震に向けて、自助力向上をめざし」…………… 愛知県名古屋市杉村消防団 ……33  
 第31回日中消防協会定期協議会 ………………(公財)日本消防協会 ……34  
 第7回日中韓消防協会会議 ………………(公財)日本消防協会 ……35  
 第29回中国消防視察「内モンゴル自治区」……………(公財)日本消防協会 ……36  
 第15回全国中学生「防火防災に関する」作文コンクール結果 …… 生活協同組合全日本消防人共済会 ……40  
 堺市美原消防団 放置ボンベの講習会と搜索活動 ～放置ボンベ撲滅事業への取組～  
 ……………… 大阪府堺市美原消防団 ……42  
 セルフスタンドにおける安全な給油について ……………… 総務省消防庁危険物保安室 ……43  
 うちの名物団員 ……………… 記事記載各県 ……44  
 消防団の広場(広島県) ポンプ操法から得た「絆」…………… 福山市消防団 芦田西分団 分団長 市川義直 ……46

編集後記

### 表紙写真説明

#### 「産業都市ならではの工場夜景」

ものづくり産業都市ならではの観光資源として、現在「工場夜景」が全国で注目を集めている中、「ものづくりのまち」として発展してきた尼崎市は、市内に多数の工場を有しており、そんな尼崎の工場夜景の特徴は、ズバリ「工場までの距離が近い」こと！

平成22年度からは、全国の都市が参加して「全国工場夜景サミット」が開催されており、平成26年度から正式加入となった尼崎市において、平成28年1月下旬に「全国工場夜景サミット」が開催されます。

(兵庫県尼崎市)



第21回  
**全国女性消防団員活性化  
 佐賀大会** 平成27年10/29木・30金  
 会場：式典・大会 佐賀市文化会館 情報交流会 マリトピア

大会  
 テーマ 葉隠の里 ようこそ佐賀へ 明日への創造  
 ～地域・生命・未来を守る女性消防団～



iwatani

鳥居のつとめ エコフェスティバル  
 パルコワンダラス

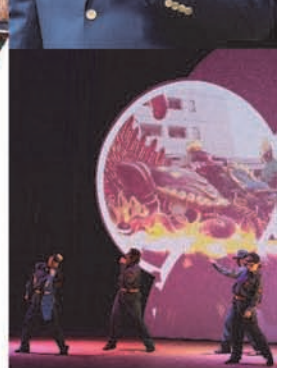
水野と重源殿

宇陀宮・高松橋

筑前国府神社

唐津くまも

【主催】消防庁/公益財団法人日本消防協会/消防士個人宅消防団員活性化促進会実行委員会(佐賀県・佐賀市・公益財団法人佐賀県消防協会)  
 【後援】佐賀県庁/佐賀県庁村会/佐賀県消防協会/佐賀県消防団防火クラブ連絡協議会



# 第31回日中消防協会定期協議会

平成27年11月9日(月) 於 ホテルオークラ



# 第7回日中韓消防協会会議

平成27年11月10日(火) 於 ホテルオークラ



## 「地域の防災で消防団が中核的な役割を果たすために」

(公財)福島県消防協会 会長 鈴木 英雄



北海道、岩手県に次ぐ全国第3位の県土面積を有する福島県は、東北地方の最南端に位置し、東は太平洋に面し、南を茨城、栃木の両県、南西を群馬県、西を新潟県に、北を宮城、山形の両県の合せて、6県に隣接しています。

明治4年の廃藩置県後、明治9年9月21日に、若松県、磐前県及び旧福島県の3県が統合されて、ほぼ現在の福島県が誕生しておりますが、南北に走る阿武隈高地と奥羽山脈により、浜通り、中通り及び会津地方に3分され、気候、風土、さらには歴史、伝統の違いなどから、それぞれ独自の生活、文化を形成しております。

那須火山脈が部分的に被さる奥羽山脈は、安達太良山、吾妻山など標高2千メートル級の美しい山々からなり、多くの景勝地や温泉にも恵まれ、訪れる人々を心身共に癒やしてくれます。また、阿武隈川、阿賀川及び阿武隈高地を水源として東流し太平洋に注ぐ鮫川、新田川などが、地味肥沃な農地とともに緑豊かな大地を形作り、民謡「会津磐梯山」に唄われる名峰磐梯山は、眼下に見下ろす猪苗代湖とともに、北に連なる裏磐梯の山並みと相俟って、一年を通じ多くの観光客が訪れ、特に紅葉の時期には、毎年多くの観光客で車が列をなし、本県を代表する観光地となっております。

その本県を、平成23年3月11日、未曾有の大地震、津波及び東京電力原子力発電所事故が襲いました。これまでに経験したことのない、予想を超える大惨事に、24名の消防団員が尊い命を失っております。あれから

4年、全国から多くの温かいご支援をいただき、1日も早い復興に、福島県を挙げて取り組んでおりますが、今でも10万人を超える県民が、県内外で避難生活を余儀なくされており、未だ復興半ばと言わざるを得ません。改めて、皆様方のこれまでのご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも温かい目で見守り続けていただければ幸いに思う次第であります。

さて、福島県消防協会は、昭和5年4月に財団法人福島県消防協会としてスタートして以来、今年で85年を迎えます。その間当協会としては、防火・防災思想の普及啓発、消防団の育成強化、消防職員・団員の共済事業などを通じ、本県消防の発展に寄与して参りました。現在、会員である消防団員は、59消防団に約34,500人、同じく消防職員は、12消防本部に、約2,400人が在職しております。この合わせて約36,500人を超える職・団員が、今も、火災を始めとする各種災害に対する救急救助活動に昼夜を問わず従事し、地域住民の安全・安心を守っております。

本県においては、震災以降も、毎年大雨、大雪などの災害が後を絶ちません。そのため、県内各地域における消防活動は益々重要になってきているところですが、一方では、消防を取り巻く厳しい状況は本県においても同様であります。消防団員の高齢化、サラリーマン化、それに伴う団員数の減少は今後の大きな課題であります。本県の消防団員数は、約34,500人と全国で5番目の多さですが、震災直後の一時の落込みを持ち直したとは言え、未だ震災前との比較で約1,000人が減少した

ままであります。そのため、当協会としては、これまでも、入団促進パンフレット等の作成・配布や企業・経済団体への要請活動など、入団促進に繋がる諸施策を各種執り行なって参りました。そして3年前からは、これから社会人となる高校3年生に対し、「守れわがまち」を配布し、その中の、年間15校を目途に県が出前講座を行うなど、若い新たな団員確保に向けた広報・啓発に努めております。また、本県の女性消防団員数は、約190人で47都道府県で38番目となります。女性消防団員数の全消防団員数に占める割合が、本県は約0.55%で、全国平均の約2.57%を大きく下回っております。この事態に、本協会としても、女性消防団員研修会等を通じた各種PRや女性消防団員の活躍を入団促進チラシで紹介するなど、また、県としても、独自の広報及び消防団の設置主体である市町村に対する協力要請などにより、女性の入団促進のための諸施策を展開しているところではありますが、なかなか形に表れてはくれないというのが実状であります。

このような状況にある本県の消防団であります。これからの「あり方」について考えてみたいと思います。

消防団としての消防活動が、火災に対するものとの相対的な比較において、風水害等の災害に対する活動が大きくなってきている昨今、より地域に密着した消防団の活動が益々重要となってきております。また、消防活動としては、予防消防の観点から、火を出さないための啓発も大切ですが、自然災害のような未然に防止できない災害もあり、発生した災害の被害を最小限に留めることが、より重要になって参ります。

そのためには、先ず、住民避難体制の整備が肝要です。地区防災計画・避難計画が策定され、それを受けて、できるだけ多くの住民が参加する防災訓練を実施して、住民個々が避難態勢を普段の生活の中で当たり前のように認識しておくことが必要です。地域に高齢の方などが多くなると防災知識の普及

啓発などにおいて、よりいたわりの気持ちを持って接することのできる女性消防団員の役割が益々大きくなってきます。

次に、避難勧告の発令と伝達です。いざ災害が発生して、適切な避難勧告が発せられても、住民にうまく伝わらず避難が遅れた話を耳にします。一人暮らし世帯、高齢者、体の不自由な方、外国人など住民といっても様々な方々がいらっしゃいます。これらの方々に、如何に早く、適切な伝達を行うか、これができるのが、その地域に居住し、地域の実情を把握している消防団員です。正に地域の安全は消防団員に懸かっていると言っても過言ではありません。

最後は、消防団と自主防災組織との連携です。本県には2千を超える数の自主防災組織が存在しますが、その活動内容は様々です。共に地域に根ざす防災組織でありながら、これまで法的根拠の違いなどから消防団と自主消防組織とは十分な連携がなされておませんでした。一昨年12月に、いわゆる「地域防災力充実強化法」(以下「法」という。)が制定されたのを契機に、防災訓練などを通し、これまで以上に自主防災組織との連携強化に向け努力をしていきたいと考えています。

以上を念頭に、以前にも増して前向きな姿勢で、各消防団員が地域住民の安全安心のため、「消防団の、消防団による、住民(消防団員)のための消防活動」に心がけていけば、必ずや、「地域に密着し、災害が発生した場合に地域で即時に対応することができる消防機関である消防団が地域防災の中核的な役割を果たす」(同法第3条)ことができるものと信じております。

今後とも、当消防協会としては、組織体制の改善等を図り、業務能力の向上に努めるとともに、県、市町村との連携を強化し、日本消防協会ほか関係の皆様方のご協力をいただきながら、団員の確保、設備の拡充・整備、共済制度の充実など多様な施策の実施に取り組んで参る所存であります。

# 消防団を中核とした地域防災力充実強化大会

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文

平成27年11月30日、「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」が広島市で開催されました。

平成26年8月29日、日本消防協会主催で同じ名称の全国大会を開催したのですが、その時、全国大会だけで終るのではなく、それぞれの地方、地域の活動へと発展させていくという趣旨の申し合わせをして頂きました。広島大会はその発展の形だと考えてもよいでしょう。

ご存知のとおり、この全国大会は、その前年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しましたので、この法律で示された消防団の重要性や地域の総力を結集する地域防災力の強化の必要性を多くの国民の皆さんにご理解頂くようにしたいという思いで開催しました。160程の幅広い団体の皆さんにご賛同ご参加頂いて、安倍内閣総理大臣にも急遽ご出席頂き、力強いごあいさつを頂くなど広く各方面の注目を集めました。それが今回の広島大会に発展したのです。そして1月には茨城県でも同様の大会が開催されます。長野県でも今年6月に同趣旨の大会がありました。こうして、各地方、各地域で地域防災力強化への動きが見られることは、これからの地域の安全確保のためにすばらしいことです。

そしてこうなりますと、次に大事なのは、大会はよかったで終わらせるのではなく、これをいかして地域での具体的な活動を実現することでしょう。現実に災害が発生した時の状況を見ますと、あらかじめ、そのような事態に備えた地域の皆さんの対応について相談していて、時々実際に動いてみていたらどうだっただろうと思うことがあります。この地域ではどんな災害があり得るか。地震津波、台風、局地的豪雨、大雪などさまざまでしょうが、そんな時どう動くか。基礎になる情報収集、判断はどうするか。これをどのようにして地域の皆さんに伝え、現実の行動に結びつけていかなどいろいろなことがあるでしょう。これらをキチンと整理したら、災害対策基本法に定める地区防災計画ということになるのですが、必ずしもそこまで整理されてなくても大事なことがわかりやすく書かれていて、これを地域の皆さんが共有しておられて、いざという時には役に立つ、これが肝心なのではないでしょうか。そう考えれば手をつけやすいかもしれません。そのような地域の相談などの中で消防団が中心的な役割をはたしていくことが大事なのでしょう。

# 第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会

(公財)日本消防協会

平成27年10月29日(木)、第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会が佐賀県佐賀市の佐賀市文化会館において盛大に開催され、全国から約3,000名もの女性消防団員等関係者の方々が参加されました。

今大会は「葉隠の里 ようこそ佐賀へ 明日への創造 ～地域・生命・未来を守る女性消防団～」をテーマに、全国女性消防団員が一堂に会し、日頃の消防団活動や



取り組みについての発表や地域を超えた情報交換が行われ、活気溢れる大会となりました。

大会要項	大会スケジュール
1 大会名称 第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会	9:30 オープニングセレモニー
2 開催日 平成27年10月29日(木)～30日(金)	10:00 開会式
3 会場 佐賀市文化会館	11:00 パネルディスカッション
4 主催 消防庁 公益財団法人日本消防協会 第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会実行委員会 (佐賀県・佐賀市・公益財団法人佐賀県消防協会)	12:30 アトラクション、昼食・休憩 13:30 活動報告(4団体) 14:35 記念公演「柔道家 古賀稔彦氏」
5 後援 佐賀県市長会 佐賀県町村会 佐賀県消防長会 佐賀県女性防火防災クラブ連絡協議会	15:40 閉会式 16:00 閉会  情報交流会「マリトピア」 17:30～19:30



## 開会式



佐賀広域消防局音楽隊によるコンサート



佐賀県鹿島市母ヶ浦面浮立の先導により大会旗入場



開会宣言 神埼市消防団 古川初子さん



主催者挨拶 消防庁 佐々木敦朗長官



高市早苗総務大臣から、「災害が多発している昨今、地域防災力の強化は喫緊の課題であり、その中核をなすのが消防団です。女性消防団員の皆様には、災害時における消火活動や後方支援活動、平常時においても応急手当の普及や防災教育等、多岐に亘ってご活躍いただいております。輝く女性のリーダーとして、益々これからも頑張っていただくと嬉しいですよ」と、感謝と激励のビデオメッセージが寄せられました。



主催者挨拶 日本消防協会 秋本敏文会長



実行委員長挨拶 佐賀県消防協会 原田 守会長



開催県・佐賀県知事挨拶 山口祥義知事



開催市・佐賀市長挨拶 秀島敏行市長

## パネルディスカッション

- コーディネーター  
公益財団法人日本消防協会 秋本敏文会長
- パネリスト  

神戸大学名誉教授	室崎益輝氏
青森県弘前市消防団	藤田礼美氏
東京都田園調布消防団	高橋春美氏
島根県松江市消防団	山田弘子氏
佐賀県伊万里市消防団	宮崎紀子氏



パネルディスカッションは「地域防災力強化と女性消防団員の役割」をテーマに実施されました。

初めに、神戸大学名誉教授で消防審議会会長の室崎先生からテーマの導入となるご講演をいただきました。多様化・激甚化する災害リスクに備え、大地震から火災、救急等の日常災害に至るまで多様なニーズに応えるためには、常備による上からの防災と地域の協働によるボトムアップの防災が車の両輪になること。これに関わる2つの重要な制度改正（消防団を中核とした地域防災力新法、地区防災計画の制度化）が行われたこと。消防機関から専門的の市民（女性防火クラブ等）、一般市民までが重層的に大きな力を発揮する必要があること。そのためにはつなぎ役となる消防団の役割が極めて大きいこと。特に地域に密着した防災を推進するうえで女性の力は欠かせないこと。等々その後のディスカッションにつながるお話をさせていただきました。

続いて、それぞれの地域で女性消防団員のリーダーとしてご活躍されているパネリストの皆さんに、ご自身の経験やお考えなどをお話いただきました。

弘前市消防団の藤田礼美さんからは、応急手当講習会等の指導員として、中学校・高等学校・大学での応急手当講習指導はもちろんのこと、商店街主催の歩行者天国や分団主催の消防フェア等の



神戸大学名誉教授 室崎益輝氏



青森県弘前市消防団 藤田礼美さん

地域イベントにも積極的に参加し、応急手当の普及活動に力を入れていること。また、子どもたちへの防火教育で、寸劇を用いて、火や煙の特性を知り、自分の身を守る知恵を身につけてさせていることが紹介されました。小さい頃から地域を守る消防団のことを記憶の中に植え付けて、後継者の育つ環境を整えていくことが女性消防団員の新たな役目と感じ、日々の活動に努めていることをお話いただきました。

田園調布消防団の高橋春美さんからは、高層ビルが立ち並ぶオフィス街、多数の住宅街、西の山間部、島しょ部など、首都東京も地域によって様々な災害が起こりうること。人口が多く、転入転出も頻繁にあり、近隣県からの通勤通学も多いことなどの特性を踏まえた地域防災力向上のための防災訓練が必要であること。女性消防団員のなかには、通訳、アナウンサー、保育士、インストラクター等様々な職業経験を持っている団員がおり、消防団活動に「プロ」としての経験が大いに活かされていることなどのお話を活動事例を交えていただきました。

松江市消防団山田弘子さんからは、平成21年に結成された「カメラア隊」の主な活動内容と、昨年日本消防協会から交付された防災学習・災害活動車を活用して指導を行うための講習会の模様、実際に車を使った防災訓練の様子をお話していただきました。女性団員自ら防災学習・災害活動車を活用し、防災とは、特別な訓練を受けた消防士や消防団員だけが行うものではなく、誰でも備えることができる、みんなで取り組んでいかなければならないものであるということをアピールしていきたいと強調されました。

地元、伊万里市消防団の宮崎紀子さんからは、子供たちへの教育を一番に考え、保育園や幼稚園で子どもたちに防火教室を実施し、紙芝居の読み聞かせや、消防ゴレンジャーに変身して、子どもたちにもできる防災のスキルを学んでもらっていること。消防団を中核とした地域防災力新法により、男性ばかりでなく、女性が活かされてこそその防災、減災であり、皆さんがそのリーダーとなり、誰もが気軽に防災に関わっていけるような社会を一緒に目指していきたいとお話でした。

その後の意見交換では、東日本大震災を教訓に地域のみんなに参加してもらい防災マップづくりを進めていること、様々なケースを想定した図上訓練に力を入れていること、女性消防団員が活動しやすい環境づくりが一層重要になることなどの発言が出されました。そして、どういう災害を想定し、これに備え、誰が行動するかがとても重要になること。そのためには、地域の日ごろの話し合い、ひとのつながり・コミュニケーションが欠かせず、女性消防団員が大きな役割を果たせることなどが、秋本会長の進行で、室崎先生



東京都田園調布消防団 高橋春美さん



島根県松江市消防団 山田弘子さん



佐賀県伊万里市消防団 宮崎紀子さん

のコメントを交え話し合われました。

会場からは、パネリストの発言に大きくうなずいたり、共感の拍手も起こり、また、広島市豪雨災害時における地元女性消防団員の避難所での支援活動についての発言も出されるなど、会場全体が一体となり、和やかななかにも熱気溢れる有意義なパネルディスカッションとなりました。



意見交換を進行する秋本敏文会長



会場からの活発な発言

## 活動事例発表

全国から選ばれた4団体が日頃取り組んでいる活動を発表しました。



火災予防啓発劇「子守じぞうさま」(福岡県北九州市小倉南消防団)



動物の子ども達だけの花火で火災となる人形劇で、火遊びの禁止や台風や地震の時の注意事項を伝える啓発劇でした。



「小中学校における救急講習会」(茨城県土浦市消防団 清水裕美さん)



小中学校における救急講習会について、開催に至った経緯、実施方法、今後の目標を発表しました。



「心理的応急処置(PFA)習得と消防団を中核とした合同訓練について」(奈良県奈良市消防団 石田裕子さん)



広報指導分団の活動や心理的応急処置(PFA)研修、消防団・DMAT・DPAT合同訓練について発表しました。



「女性消防団出動！～火災現場から見てきたもの～」(佐賀県多久市消防団 諏訪智代美さん)



女性消防団の活動(高齢者宅への防火予防訪問、機関紙の発行)、火災現場での女性団員の活動について発表しました。

## アトラクション



地元はっぴい・かむかむによる「佐賀にわか」



次期開催地・北海道出身の杜このみさん

## 記念講演

柔道家としてご活躍している佐賀県出身の古賀稔彦氏に「夢の実現～挑戦することの大切さ～」と題し記念講演を行っていただきました。3度のオリンピック挑戦での挫折・危機を乗り越え努力することの大切さや指導者として子供たちとともに汗を流せることへの感謝の心など、元気が出る熱いお話に会場が盛り上がり、女性消防団員へのエールとなる大変有意義な講演となりました。



## 閉会式



大会宣言 鳥栖市消防団 齊藤恵美さん



お礼の言葉 武雄市消防団 下平かつ子さん



大会旗引き継ぎ



次期開催地代表挨拶 北海道消防協会 東田慎悟会長



閉会宣言 伊万里消防団 梶原照子さん



司会 鹿児島消防団 山口瑞枝さん

## 会場の様子



第二会場の様子



防災学習車展示コーナー



全国各地の女性消防団活動紹介コーナー



運営には佐賀県内の多くの消防団員、消防職員のご協力をいただきました。



佐賀インターナショナル バルーンフェスタをPR



さがJIMAN市場（物産販売）

## 情報交流会(マリトピア)



鏡開き



乾杯



ブロック代表 お国自慢・のど自慢大会



会場内は大いに盛り上がりました



約1,800人の参加者が交流を深めました



司会 黒田 彩さん 原 和正さん

### 次回開催

### 第22回全国女性消防団員活性化北海道大会

会期 平成28年6月3日(金)・4日(土)

会場 第一会場 さっぽろ芸術文化の館(ニトリ文化ホール)

第二会場 札幌市教育文化会館



# 消防団防災学習・災害活動車両交付事業

(公財)日本消防協会

## 概要

日本消防協会では、消防団を中核とした地域の総合的な防災力の充実強化を図ることを目的に、「消防団防災学習・災害活動車両」を製作し、日本宝くじ協会のご支援を得て、平成26年度から全国の消防団に交付しています。

この車両は、防災訓練等への取組を支援するため、平時は地域住民、子供たち、事業所等の防災学習や防災指導用として活用し、災害時には緊急車両として消火・救助資機材等の搬送や現場活動に活用できるものです。

車両は、ワンボックス型ハイルーフ、4輪駆動、4速オートマチックトランスミッションを基本とし、室内空間も十分に広く、普通免許で運転が可能です。

後部デッキに、防災学習用資機材(※1)及び災害活動用資機材(※2)を収納し、用途に応じて積み替えることが可能です。資器材の積み降ろしを容易にするため、車両後部に電動パワーリフト(300kg)を搭載しています。

また、各種資機材を収納ボックスに積載し、ベルトで自在に固定することで、走行中でも安定した状態を保つことができます。

平成26・27年度において全国の消防団に20台を交付しています。



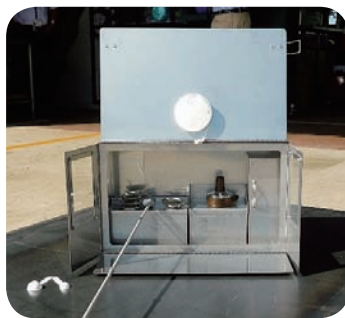
## 主な装備品

### ○防災学習用資機材(※1)

防災学習用資機材には、訓練用の初期消火装置や消火器、煙体験ハウスなどの初期消火訓練用資機材のほか、AEDトレーナーセットなどの応急手当訓練用資機材などがあります。さらに、DVD内蔵のプロジェクターとスクリーンにより屋内、屋外での訓練、指導が可能となっています。



初期消火装置



天ぶら油実験装置



訓練用消火器



煙体験ハウス



AEDトレーナーセット



プロジェクター、PC、大型スクリーン



## ○災害活動用資機材(※2)

いざ災害が発生した時には、軽可搬ポンプなどの消火器具や万能斧、ジャッキなどの救助器具、夜間の明るさを確保するための投光器及び発電機など、災害活動に使用する資機材を積み替えて出動することができます。



軽可搬ポンプ



発電発電機



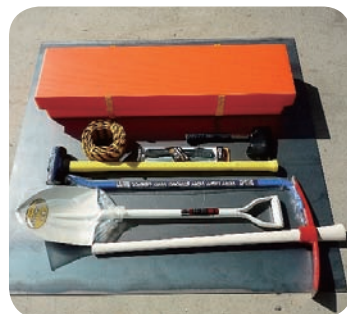
バルーン投光器



担架



AED



レスキューセット



問い合わせ先  
(公財) 日本消防協会 業務部  
TEL : 03-3503-3059

# ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 佐々木敦朗消防庁長官 出演

放送日：平成27年10月31日、11月1日

山本アナ：「おはよう！ニッポン全国消防団」、改めてご紹介しましょう。今日のゲストは、消防庁長官の佐々木敦朗（ささき・あつろう）さんです。  
よろしくお祈りします。

佐々木長官：おはようございます。消防庁長官の佐々木です。よろしくお祈りします。

山本アナ：ラジオをお聞きの皆さんの中には、消防庁のことをあまりご存じない方もおられると思います。

まずは、消防庁はどんなお仕事をなさっているのか、教えていただけますか？

佐々木長官：はい、全国にはおよそ16万人の消防職員と、86万人の消防団員の方々がおられます。消防庁では、これらの皆さんが円滑に消防防災活動を実施できるよう、消防防災に関する制度の企画立案、消防車や救急車などの予算の確保を行っています。また、9月の関東・東北豪雨のように大規模な災害が発生した場合には、迅速に情報を収集し、緊急消防援助隊の派遣を行います。

山本アナ：ではここからは、佐々木長官のこれまでの経歴について伺います。

佐々木長官は、あの阪神・淡路大震災の発災直後、神戸市役所で勤務されたそうですね？

佐々木長官：はい、私は阪神・淡路大震災の後、神戸市役所に出向し、震災からの復旧・復興に3年間携わりました。あれから20年目のこの年に、消防防災行政を担う消防庁長官に就任したことは、誠に感慨深いものがあります。

山本アナ：さて、2011年の東日本大震災の際には、どんな仕事をされていたんですか？

佐々木長官：東日本大震災の発生時には、総務省で公務員部長を勤めていましたが、津波の被災地である東北沿岸部の市町村では、災害に対応する職員が圧倒的に不足する事態となりました。そこで、総務省が仲介役となって、全国の市町村から被災地の市町村に職員を応援派遣する仕組みをつくりました。今でも多くの職員が応援を続けています。



山本アナ：では、今後長官として進めていきたい、取り組みをお聞かせください。

佐々木長官：これまでの経験から、災害に強い社会をつくるためには、地域にお住まいになっている方々が、日頃から災害に対する「心構え」や「備え」を怠らず、地域の防災力を高めていくことが、何よりだと考えています。そのために最も頼りになる存在が、消防団だと思います。

山本アナ：続きまして、消防庁の消防団に対する取り組みも教えてください。

佐々木長官：はい、一昨年12月に、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。これを受けて、消防庁では、「消防団充実強化対策本部」を設置するとともに、昨年の4月には「地域防災室」という組織を作り、消防団の充実強化を進めています。具体的な取り組みとしては、例えば、消防団員の処遇を改善するため、昨年、退職報償金について、全階級・一律5万円の引き上げを行いました。

山本アナ：地域の防災力の強化のためには、気運の醸成をしていくことも必要だと思いますが、それについては如何でしょうか？

佐々木長官：はい、昨年8月に、日本消防協会の主催で、東京において「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」が盛大に開催されましたが、今年度は消防庁主催で、東西2箇所において地域防災力充実強化大会を開催します。西は11月30日に広島県で、東は来年1月29日に茨城県で開催します。身近な地域の防災について考えるよい機会ですので、このラジオをお聞きの皆さん、奮ってご参加いただくようお願いいたします。

山本アナ：ラジオをお聞きの全国の消防団員の方へ、メッセージをお願いします。

佐々木長官：全国の消防団員の皆さんが、災害時には「自分たちの町は自分たちで守る」という使命感のもと、地域の安全安心のため一致団結してご尽力していただいていることに対しまして、心から敬意を表し、感謝を申し上げます。また、消防団活動にご理解をいただき、消防団員を支えているご家族の皆様方にも厚く御礼申し上げます。我が国は、地震、台風、豪雨、火山噴火など、毎年様々な災害に見舞われています。災害発生時における消防団への期待はきわめて大きく、まさに消防団は地域の防災力の中核です。自らの安全も確保しつつ、一人でも多くの住民を守るため、引き続きのご尽力をお願いいたします。消防庁も全力で応援します。

山本アナ：最後に、全国でこの番組を聴いていらっしゃる方にも、一言お願いします。

佐々木長官：ラジオをお聞きになっている皆さんには、是非「消防団」に興味・関心を持っていただき、そして「我こそは!」と思う方は、入団をしていただけたら幸いです。

今、女性や学生の団員も増えています。みんなで自分たちの地域の安全を守っていきましょう。

山本アナ：「おはよう!ニッポン全国消防団」、今日は、消防庁長官の佐々木敦朗さんをお迎えしてお送りしました。ありがとうございました。

佐々木長官：ありがとうございました。



特別表彰「まとい」を受章して

「安全で安心なまちづくりを担う消防団として」

岡山県津山市消防団 団長 土肥祥嗣



## 1 はじめに

平成27年3月10日、日本消防会館（ニッショーホール）に於いて挙行された「第67回日本消防協会定例表彰式」で消防団として最高の榮譽である特別表彰「まとい」を拝受いたしました。

全国2,200有余ある消防団の中から、この榮譽ある表彰を受章できましたことは、津山市消防団としてこの上ない喜びであり、誇りとするところでもあります。これもひとえに、永い歴史と伝統を築いてこられた先輩方をはじめ、津山市民皆様の消防団に対するご理解とご協力、更には日本消防協会、岡山県、岡山県消防協会、津山消防関係者方々の多大なるご支援の賜物であると深く感謝申し上げます。

## 2 岡山県津山市の紹介

津山市は、岡山県の北東部に位置し、北は鳥取県と県境を接し、人口は約10万4千人、総面積は506.33km<sup>2</sup>で、市街地は周囲を中国山地に囲まれた盆地にあり、中国山地から流れ出る一級河川吉井川とその支流が市域を流れ、豊かな森林と水に恵まれた街です。古くから山陽・山陰を結ぶ交通の要衝として栄え、近世以降は城下町として発展し、歴史と文化が息づく県北部の中心都市です。また、津山城跡（鶴山公園）は西日本有数の桜の名所として知られ多くの観光客が訪れます。



## 3 津山市消防団の紹介

津山市消防団は、津山市が平成17年2月28日に苦田郡加茂町、苦田郡阿波村、勝田郡勝北町、久米郡久米町を編入合併し、それに伴い市消防団も町村消防団と統合し、新津山市消防団となりました。現在団員定数2,248名（実員2,130名うち女性団員16名）、1本部8方面隊38分団という組織で活動をおこなっています。装備については消防ポンプ車19台、小型動力ポンプ付積載車93台、小型動力ポンプ53台、照明車1台、赤バイ3台を配備し、消防機庫は各部ごとに設置しています。

消防団活動としては、毎年1月に津山圏域消防組合と合同で挙行する津山消防出初式



宮地昭範 津山市長と撮影

から始まり、文化財防火訓練、消防操法訓練大会、春・秋の火災予防運動での防火広報や火災を想定した中継送水訓練、夏季訓練（礼式、水防工法、応急法など）、部長級団員を対象にした消防学校

一日入校、納涼花火大会の警備、年末夜警などをおこなっています。また、分団・部ごとに機械器具や消防水利の点検、住宅用火災警報器の設置促進にも力を入れています。

災害出動では、市内で連続不審火が発生した際、消火作業はもとより連日夜警にあたり、住民の安心のために一丸となって取り組みました。水害については、ここ十余年、大きな浸水被害は発生していませんが、集中豪雨による被害が全国的に頻発していることから、水防訓練の実施や資材の点検、河川排水門の操作方法の確認など会議で各分団に指示しています。

市民を対象とした行事では、隔年実施する市総合防災訓練に市民や自主防災組織からも参加してもらい、避難誘導、救出・救助訓練、初期消火訓練の指導をおこなっています。また、毎年防災週間にあわせて開催している消防・防災展では女性消防団員が防災クイズや展示品の解説、非常食の試食コーナーなどで市民に対し、防災意識の啓発もおこなっています。消防本部が主催する「こども消防写生大会」には、消防団からは日本消防協会から交付された多機能型消防車両や赤パイも展示し、子どもたちに大変人気があります。今

後は消防団が地域の自主防災組織と一層連携し、地域住民が災害を防ぐ知恵や技術を習得できるよう地域防災活動を推進します。

#### 4 おわりに

近年は、全国的にも集中豪雨などによる局地的な災害が数多く発生しており、いつどこで発生してもおかしくない中、昨年8月には、隣県広島において、土砂災害が発生し、大きな被害をもたらし、爪痕を残しました。

災害が複雑・多様化、また、大規模化の傾向にある中で消防団に寄せられる期待もより一層大きくなっている今、地域に密着し、地域住民の安全・安心を守る役割である我々の災害への備えが特に必要となっています。

その一方で、人口減少や少子高齢化、また社会の変化が消防団にも大きく影響し、団員の減少が本市消防団においても課題となっている中、地域に根付いた防災機関として、いろいろな機会をとらえて地域住民の防災意識の高揚も図りながら、消防団活動の素晴らしさをしっかりとPRし、アピールもして理解してもらうことが団員の確保につながると確信しております。

この度の特別表彰「まとい」受章を機に、これまで以上に気を引き締め、地域防災の要として住民の生命・身体・財産を守るという重要な責務達成のため、さらなる邁進をしていかなければならないと考えています。



消防団一斉放水

## 「守る命、輝く活動」



芦屋市消防団 団長 岸野 雅信

### 1 海と緑、文化人が愛したまち芦屋

芦屋市は兵庫県の南東部、大阪と神戸の中間に位置し、東西約2.5 Km南北9.6 Kmと南北に細長い町で、北は六甲の山並み、南は大阪湾に面し温かな自然環境と便利な交通環境など生活条件に恵まれた国際文化住宅都市として知られています。

また、多くの文豪に愛された芦屋には谷崎潤一郎の「細雪」に登場する医院や句碑など、町のいたるところに文学の足跡があります。



細雪の碑

### 2 芦屋市消防団の概要

芦屋市消防団は明治24年に地域住民の任意によって結成された自衛消防組織で「消防組」として誕生しました。

大正4年に公設の消防組となり昭和14年には「警防団」となり昭和23年自治体消防機関として「芦屋市消防団」が誕生しました。

現在「芦屋市消防団」は団本部、4分団、団員数100名（内女性消防団員17名、平成27年4月1日現在）消防車両等として、指揮車1台、消防ポンプ車（CD-II型）4台、小



無線運用

型動力ポンプが配備されています。また、阪神淡路大震災の翌年より各車両に車載無線機、団本部、各分団長は携帯無線機を所持し、平成26年には消防本部無線指令台のデジタル化に伴い、芦屋市消防団も消防団波を取得しデジタル無線機を導入し、団員の安全確保や指揮系統の充実に努めています。

### 3 女性消防団の誕生

平成7年1月17日に発生した「阪神淡路大震災」で、芦屋市は市域全体が壊滅的被害を受け、倒壊家屋から助けを求める現場が多数ありました。

倒壊現場において、男性団員が負傷者の女性に対して何も手立てができなかった無力感から消防団にも女性の必要性が生まれました。

女性ならではのきめ細やかな消防団活動と地域の防災力の強化の一環として、平成8年に女性消防団「バーディーズ」が誕生しました。発足当初は10名でしたが、現在は17名で構成されており、ほぼ全員が応急手当





バーディーズの活動

普及員の資格をもっています。

#### 4 芦屋市消防団の活動状況

月に2回の定時訓練においては操法、機関員研修や現場活動における安全管理を重視し、常備消防と連携し、あらゆる現場を想定した指揮系統の確認や安全第一を優先に各種資機材搬送訓練等を実施しています。さらに、平常時から火災予防の啓発活動や地域の自主防災訓練に積極的に参加し防災力の向上に寄与しています。

また、幼児期からの防火防災教育を重要視し、女性消防団員を中心に「パネルシアター」の上映や幼児期からの防火教育指導に取り組んでいます。

「パネルシアター」は、動く絵本のような感じでストーリーに合わせ、パネルに絵を次々に貼っていき、消防や救急の話を進めていくものです。

芦屋市消防団では、特に応急手当普及啓発活動に力を入れており、平成19年に応急手当普及員の1期生として9名を養成し、平成27年10月現在で、48名(男性33名、女性15名)を養成しています。今では、芦屋市消防団員の約50%が応急手当普及員資格取得者となっています。

また、神戸市灘消防団の協力を得て市民向けの普通救命講習会の開催を目標に、団員自らの発案で毎月第4日曜日に応急手当普及員の勉強会を開き、救命指導技術の向



応急普及活動

上と市民の皆様にはわかり易い指導法を身につけるため、日々訓練に励んでいます。

#### 5 おわりに

芦屋市消防団が応急手当普及員に力を入れているのは、芦屋市民の一人一人の命を守りたい、市民の命を守ることが郷土を守る「防人」の使命であると思うからです。

そうした訓練の成果が実り、先日、女性消防団員の勤務先で倒れたCPAの女性を適切な処置で救急隊員に引き継ぐことで、一命を取り留めた事案があり、消防本部救急課や関係医療機関の皆様から賛辞をいただき、応急手当普及員の日頃の弛まぬ訓練の成果がでた事案となりました。

今後も、芦屋市民の安全・安心を念頭において、『守る命・輝く活動』をスローガンに、防災力・救命技術の向上に向けて地域住民との連携を更に強化し、充実した訓練を積み重ね、市民から愛され信頼される消防団活動を推し進めてまいります。



芦屋市消防団

## 「防火の要は予防消防」



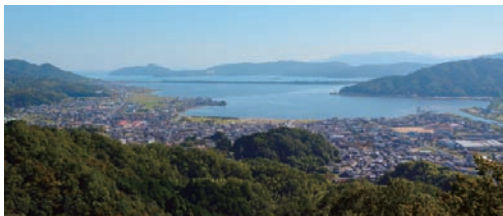
与謝野町消防団 団長 澤田 尚登

### 1 与謝野町の紹介

平成18年3月1日、加悦町・岩滝町・野田川町が合併し誕生した「与謝野町(よさのちょう)」は、京都府北部、日本海に面した丹後半島の尾根を背景とし、大江山連峰をはじめとする山並みに抱かれ、町内を南北に貫く野田川流域には肥沃な平野が広がり、日本三景のひとつ天橋立を望む阿蘇海へと続いています。

総面積108平方キロメートルの範囲に約2万4千人が生活を営み、南北約20キロメートルの間に丹後ちりめんや廻船問屋などで繁栄した町並み、与謝蕪村、与謝野鉄幹・晶子等の文人ゆかりの地が連なるというまとまりの良い地域です。

気候は、冬に降水量の多い日本海側の山陰型気候で「うらにし」と呼ばれる時雨が特徴ですが、春は新緑、夏はハーブやひまわり畑、秋は黄金色の稲穂と紅葉など四季の彩りに包まれ、川の流れや海の眺めの美しい地域です。



日本三景天橋立を臨む阿蘇海



与謝野町の花ひまわり

### 2 与謝野町消防団の紹介

前述の3町合併により消防団組織も新たに与謝野町消防団として生まれ変わりました。

条例定数383名、団本部と12の分団で組織し、町内の12ヶ所に団の車庫・詰所を設置し、各分団間の連携を図り、地域住民の安心安全を見守っています。

主な装備としては、消防水槽付ポンプ車3台、消防ポンプ自動車9台、小型動力ポンプ付積載車8台を保有し、予防広報活動や各種訓練、消火活動等に当たっています。

### 3 与謝野町消防団の活動

主な活動は、年始早々の出初式から始まります。春と秋の全国一斉火災予防週間活動では、各戸への防火訪問を行い、年間を通して火災想定訓練を実施しています。更に、団長点検、町操法大会のほか、住民への消防防災意識を高める「消防防災フェア」を隔年で開催しております。

各種訓練では、各分団の副分団長・部長が、警防・予防指導員となり、京都府立消防学校の専科教育課程の受講や研修会に参加し、指導員としての責任感を培い、団本部とともに各分団の指導に当たり、消防力の向上に繋がっています。

中でも、消防操法では、合併



火災想定訓練での放水

以降、京都府消防操法大会を2回制覇しており、近年では平成24年に開催されました第23回全国消防操法大会においてポンプ車操法の部に出場しました。

#### 4 防火の要、予防消防活動

当消防団では、『火事を出さない、出させない』という基本理念により、予防消防活動にも重点をおいており、平成21年から当消防団主催による「消防防災フェア」を開催しております。毎回多くの親子連れでにぎわっており、本年のフェアでは600人の来場者がありました。

消防防災フェアは、常備消防である宮津与謝消防組合をはじめ多数の協力団体と連携し、消防車などの資機材を身近に触れていただき、起震車や水消火器、煙体験ハウスを活用した体験コーナーなど、大人から子どもまで楽しく体験していただきながら学べるイベントとしております。

本年の消防防災フェアは9月13日に開催し、未来の消防団員育成を意識し、町内すべての小学校から消防・防災に関する「標語」と「ポスター」を募集し、標語は163作品、ポスターは24作品の応募があり、それぞれの作品をたたえる優秀作品の表彰式も執り行いました。

当日は、常備消防と消防団の連携による車両火災を想定したレスキュー訓練も披露し、本格的な訓練を目の前にした来場者は、緊張感のある団員の姿を真剣な面持ちで見守っていました。

また、当消防団には10名の女性団員が在団しており、キッズコーナーを担当、子どもたちには手作りの「消防防災カルタ」で楽しく

防災の大切さを伝えることができました。



このフェア 常備消防との合同レスキュー訓練



女性消防隊による「防災カルタ」



親子で水消火器体験

を通じて、消防団の士気旺盛な規律ある姿だけでなく、各コーナーで気さくに接する姿に、親しみやすさも感じていただけたのではないかと考えております。

#### 5 終わりに

近年、全国的に消防団員の減少、サラリーマン化の進行等の課題に直面しており、わが与謝野町消防団においても例外ではなく、消防力の低下が危惧されており、地域との連携や、団員入団加入促進PRを行い、今後も消防団員確保に努めていきたいと思っております。

近年では、大規模な風水害や、地震、火山の噴火など予期せぬ災害が各地で多発し被害を及ぼしています。

与謝野町においても、いつ同様の災害に見舞われるか分からない状況にあることは変わり有りません。地域防災の中核である消防団に対する住民の期待も年々大きくなっており、この期待に応えるべく「自分たちの町は自分たちで守る」を一つの合言葉に、より一層、日々の訓練・予防啓発活動・消防団活動に精一杯取り組んでいきたいと思っております。



## 「自然豊かな郷土 『鹿島』を守る」



鹿島市消防団 団長 小池 幸照

### 1 鹿島市の紹介

鹿島市は、佐賀県の西南部に位置し、東には有明海が広がり、西は多良岳山系に囲まれ自然環境に恵まれたところです。

また交通体系は国道207号が長崎本線と並行して走り、福岡市と長崎市からはJR長崎本線で約1時間の距離にあります。市の総面積は112.12平方キロメートル、人口は30,522人、世帯数は10,762世帯となっています。(平成27年10月31日現在)

就業者による産業別構成は、平成22年国勢調査で第一次産業13.3%、第二次産業26.0%、第三次産業が60.6%の割合です。第



祐徳稲荷神社

一次産業は減少傾向にありますが、就業人口の割合が県内10市で最も高いことが本市の特徴です。

観光面においては、年間280万人の参拝客が訪れる日本三大稲荷の一つの祐徳稲荷

神社や有明海の自然を生かした地域おこしのイベント「鹿島ガタリンピック」、また古くから、多良岳山系の豊富な地下水を活かした酒造りが盛んな土地でもあり、最近はその酒造りをテーマとする「鹿島酒蔵ツーリズム」などのイベントも人気となっています。



ガタスキー



酒蔵通り

## 2 鹿島市消防団の概要

鹿島市消防団は、昭和29年4月1日に発足、現在は6分団、団員数767名(男性756名、女性11名:条例定数782名)で活動しています。

消防団の装備については、小型動力ポンプ付積載車31台、小型動力ポンプ16台を配備し、火災・災害時の出動以外にも、火災予防啓発活動や訓練・設備点検等、万が一に備え各部が管理運用しています。

## 3 消防団の活動状況

鹿島市消防団の主な行事としては、まず1月初旬の消防出初式で分列行進や一斉放水などを行い新年の決意を披露します。同月下旬には教育関係者や消防署、地域住民の皆さんと共同で文化財防火訓練を行い地域の大切な文化財への愛護意識と防火意識を高め、3月には春の火災予防運動の啓発・広報活動ならびに

消防団装備(機械器具)の点検を行います。4月に消防団入退団式(辞令交付式)、新入団員及び幹部団員の訓練を実施し、6月には雨季に備えた水防訓練、

8月には消防署の指導の下、消防団夏季訓練を行います。11月には秋の火災予防運動期間中の啓発・広報活動と車庫点検を行い、12月に28日から3日間実施する年末警戒で1年を締めくくります。

また、市内の福祉施設で行われる各種防火防災訓練、さらには自主防災組織との防火防災・避難誘導訓練等にも積極的に参加し、地域防災の要として役割を果たしています。

## 4 おわりに

近年、多発するゲリラ豪雨などの大雨災害や台風災害、また南海トラフ巨大地震の発生など大規模な災害の可能性が高まる中、私たち消防に携わる者への期待は益々高まってきています。

幸い、近年の鹿島市においては、火災の発生件数も比較的少なく、大規模な風雨・土砂災害等の発生ありませんが、今後も「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づき、消防署や地域の自主防災組織などとの連携を図りながら、この自然豊かな郷土「鹿島」を守るべく、日々努力してまいりたいと思います。



文化財防火訓練



## シンフォニー（宮城県） 「女性消防隊の一員として …雑感」

名取市消防団 女性消防隊 隊員  
伊藤 明美

名取市は宮城県の南部に位置し、西部は丘陵、東部は仙台平野、仙台市との境に名取川が流れ、河口に閑上港があります。平成23年3月11日の東日本大震災では、太平洋に面した閑上地区と下増田地区を中心に甚大な被害を被り、多くの市民が犠牲となり、消防職団員も殉職する悲しい結果となりました。私達は、この震災を通じて女性が災害時に出勤することの難しさを改めて認識すると同時に災害時に私達、女性団員にできることは何なのかを考えさせられました。震災後は消防団災害時活動マニュアルの見直しなどが行われ、女性団員の災害発生時の役割などが、盛り込まれました。

さて、私たち名取市消防団女性消防隊は

平成7年に発足し、現在18名が在籍しています。私もその一員として平成12年に入団してから15年間に亘り女性消防隊員として活動してまいりました。主な活動内容といたしまして、年頭の消防出初式に始まり、子ども向けの活動としては、新入園児童を対象とした幼年消防クラブの入会式があります。私たちは小さい手に任命状を渡し、大きな手作りの紙芝居を読みます。法被を着た園児の元気な誓いの言葉と「ぼくらは幼年消防隊」の歌声。そして、帰る時にまた小さい手とのハイタッチ。私たちは幼年消防隊と火遊びをしないお約束をし、防災に対する知識を伝え、子供たちから沢山の元気ももらって帰ってきます。



女性消防隊行進

高齢者向けの活動としては、民生委員と連携して年2回の防火訪問を行っています。私たちの訪問を楽しみにしている高齢者の方も多く、お子さんやお孫さんの話が終わらず、なかなか次の訪問先に行けないこともあります。この時に感じるのは、子どもと別居している一人暮らしの高齢者の方がほとんどで、災害発生時にどうしたら良いのか、毎日不安を抱きながら生活しているという事です。訪問する度に、この防火訪問の必要性を強く感じています。

啓蒙活動としては、11月3日の名取秋祭りに応急手当の展示、消火器訓練などを行っています。

また、火災予防週間には市内4ヶ所の駅でポケットティッシュを配り、火災予防の呼びかけをしています。

そして、私が活動の中で一番重点をおいているのが救命講習です。私たちの隊は全員が応急手当普及員の資格を持っていて、署員の方と一緒に救命講習の指導を行っています。“あなたが、その場に居合わせた時、何をすべきか”を、市民に伝えるのですが、大切なのは、“勇気を持って、自分にできることをやる”ということ。ガイドライン2010の心肺蘇生法もAEDの使い方も、決して難

しいものではありません。しかし、初めて講習に来た方にとっては、応急手当はとても難しいと捉えている方が多い様に感じます。その中で私の役割は、短時間でしっかり覚えてもらえるように指導することです。救急救命士の方は、真剣に受講生に話しかけるだけではなく、応急手当が必要な時の傷病者の動作をまねたり、時には笑わせてリラックスさせたり、表現に変化を持たせて指導しています。私も応急手当の大切さや、私たちにも救える命があることを分かってもらえるように、もっと伝え方を勉強していきたいと思います。

最近になって、亡き祖父も消防団に入っていたことが分かりました。たまたま祖父が消防団の法被を着た写真を見る機会があったからです。なんだかとても嬉しくなり、「市民のために、もっとがんばろう！」という気持ちになりました。

私たち女性消防隊にできることは、まだまだ沢山あります。もっと市民に寄り添い、市民を守り、市民から期待される女性消防隊員になれるように、全国の女性団員の活動をお手本にしながら、これからも頑張りたいと思います。



市民や大学生への救命講習



## シンフォニー（石川県） 「笑顔でご奉仕」

七尾市第1消防団本部 部長  
田治 康子

七尾市は、平成23年に世界農業遺産として認定された能登の入り口に位置し、人口約五万六千人の温泉城下町です。開湯千二百年の和倉温泉や、美しい七尾湾に浮かぶ能登島は、水族館や野生イルカの生息で知られています。また、その昔難攻不落の山城としてその名を馳せた七尾城跡は、七尾市街地と七尾湾を見渡せ、城山展望台は七尾の名前の由来である七つの尾根が一望できる絶好スポットです。

そんな里山里海の、のんびりとした能登に平成19年3月25日朝、忘れられない能登半島沖地震が発生しました。震度6は立ってられない程の激震で、当時を思い

出す時、改めて自然の恐ろしさを感じます。

私たち女性消防団員は、その翌月の4月1日に結成されました。結成は前年から決定していた事ですが、私たちは当日使命感で熱くなったことを覚えています。また、翌日には新聞紙上で「防火の女神、九人誕生」と大々的に報道され、期待の大きさに身の引き締まる思いでした。現在は団員数も20人となり、普段はそれぞれ3つの地区に分かれて活動しています。活動の内容は一年を通して火災出動はありませんが、男性団員と一緒にやる出初式や春と秋の火災防ぎょ訓練では小型動力ポンプで放水を行っています。夏の訓練大会では入場行進



女性消防団員の行進



の後、司会進行や来賓接待、賞状授与等の補助活動を行っています。また、小学校や地域での避難訓練、独居老人宅の防火診断（消防署員に同行）、各地域での防火キャンペーン等の活動も行っています。

月一回の定例会では一連の救急救命やロープの結索、骨折止血等の応急処置の復習を（救急救命士の指導のもと）行い、いざという時の備えとしています。

また、私たち女性消防団員の独自の活動としては、女性の視点からの防火防災活動であるとの自覚から、幼児防火教室に力を入れています。発足後間もなく皆で作成した「あんしん君の防火教室」の紙芝居は子供たちに大人気です。「あんしん君」は、七尾湾に沢山飛び交うカモメを擬人化して作られた消防署の防災マスコットです。紙芝居作りは、まず皆でストーリーを練り、布やフェルト等を使って週2回ペースで3カ月かけて完成しました。私たちの宝物として大切に使っています。

防火教室では、拍子木や住宅用火災警報器、効果音等を使って歌も交えて紙芝居を行い、その後、等身大の本物のあんしん君が登場すると、子供たちの歓声はピークに達します。続いてシートを使って煙から逃げる方法や、洋服に火が点いた時の消し方、地震時の身を守る方法等、子供たち全員参加型で行っています。防火教室で私たちがいつも心掛けていることは、笑顔で、そして子供たちと出来るだけ近い目線で話す事です。子供たちのキラキラした笑顔を見るのが私たちの一番の喜びです。そして、いざという時に自助の精神を持って自分を助けられる「強い七尾っ子」であっ



あんしん君

てほしいと願っています。

当初は全て女性団員で行っていましたが、今ではあんしん君の被り物は実施保育園の地区の男性団員さんが、そして団長と各地区の分団長も参加してくださり、大変心強く感謝しています。団長は日頃から私たちに「させて頂くという奉仕の精神で！」と訓示されます。消防団員として同じ志を持つ沢山の素晴らしい仲間の皆さんに出会えて、私は本当に幸せです。ひとりの力には限りがありますが、みんなの力を合わせると大きな力になります。私たちはこれからも地域のお役に立てるよう力を合わせて、初心を忘れずに『笑顔でご奉仕』を合い言葉に頑張っ



防火教室での紙芝居

# 「機能別団員導入　そして愛される消防団へ」

茨城県龍ヶ崎市消防団

## 1 はじめに

龍ヶ崎市は茨城県の南部に位置し、首都圏から50 km圏内という地理的条件から、近年は龍ヶ崎ニュータウンやつくばの里工業団地などの開発による都市化が進み、首都圏のベッドタウンとして大きな発展を遂げてきました。また南部は堆積平野に豊かな水田地帯が広がり、県南の穀倉地帯としての核を成しているほか、西部には白鳥が多く集う牛久沼があり、伝統的な投網漁や張網漁などが行われるなど、自然豊かな環境と都市化された環境が調和した素晴らしい町並みとなっています。

また、yahoo!japan主催の「第2回ご当地メシ決定戦2014」で人気投票日本一に輝いた「龍ヶ崎コロッケ」を始め、落花生や龍ヶ崎トマトなど数多くの名産品があり、そして数々の映画やドラマのロケ地としても利用されるなど、まちの魅力を全国へ発信し続けています。

## 2 龍ヶ崎市消防団の現状

本市消防団の歴史は古く、昭和29年3月に龍ヶ崎町他6ヶ村が合併し龍ヶ崎市が誕生したことに伴い消防団も統合され、7支団51分団2065名をもって組織されました。昭和32年に組織の合理化を目的として一部分団の統合を図り



龍ヶ崎市消防団機能別隊発足式

1260名の組織となった後は、度重なる組織改革を行い、現在は条例定数550名の組織となっています。

当初は2000名以上が在籍していた大規模な消防団でしたが、市外への通勤者や被雇用者が増加するといった就業形態の変化や、地域交流の希薄化が進み、平成26年4月1日現在には団員数が491名と過去最低になったことを受け、本市消防団は本格的に消防団員の確保に向けて動き出すこととなりました。

## 3 消防団員の確保

消防団員の減少は全国共通の大きな課題となっていますが、本市消防団では団員確保の為、以下のような取り組みを行いました。

- ・入団時の年齢制限を55歳から60歳へ引き上げた。



心肺蘇生の指導に取り組む女性団員



常総市で給水支援に当たる市役所隊

- 女性のみで構成される分団である第11分団を創設した。
- 市内在住となっていた入団要件を、市内在住在勤へ拡大した。
- 市役所の新規採用職員に対し、研修の一環として消防団がどのような組織かを学ぶ機会を設けた。
- 市内各地のイベントでは女性分団を中心に広報活動を行い、消防団活動への理解の促進や勧誘を行った。

こうした取り組みを継続して行ったものの、団員数減少の根本的な解決までには至りませんでした。そこで、「更なる消防団員の確保」、そして「日中の出動可能人員の確保」という予ねてからの課題を合わせて解決することを目的に、「機能別団員」の導入へと動き出すこととなりました。



50回の伝統を誇る市操法大会

#### 4 「機能別団員」の導入

機能別団員制度の導入に当たっては、元団員や元消防職員が大規模災害時に活動することや、本市に所在する流通経済大学の学生で構成する隊、そして市内の事業所職員で構成する隊の3つの柱で導入し、団員の募集や機能別団員に係る条例の制定など、平成27年4月1日から運用を開始しました。

そして平成27年5月26日、いち早く機能別団員としての活動に名乗りを上げた「JA竜ヶ崎隊・市役所隊」の発足式が行われました。これらの隊は、通常の勤務時間内に発生した水火災等の災害防衛活動を基本として活動することとし、JA竜ヶ崎隊は12名、市役所隊は14名をもって発足しました。

JA竜ヶ崎隊の発足に当たっては、本市消防団 渡辺 孝(わたなべ たかし)副団長がJA職員ということもあり、JA組合長やJA職員の皆様には機能別分団の趣旨を深くご理解頂き、機能別団員としての活動を快く引き受けていただくことができました。

市役所隊については、関東・東北豪雨の鬼怒川決壊により甚大な被害を受けた常総市へ、救援要請を基に決壊から約1週間後の9月18日に給水支援を行いました。

した。市役所隊にとって初めての本格的な消防団活動となったこの給水支援では、今年度新たに導入した小型動力ポンプ付水槽車（積載水量6 t）を使用し、常総市の市民の皆様へ約1500 Lの支援を行うことができました。給水支援という活動を通じて被災地の現状を目の当たりにした市役所隊員にとっては、市役所職員として、また消防団員としての今後の活動に対する意識を高揚させる大変貴重なきっかけとなりました。

## 5 女性消防団の取り組み

本市の女性消防団は、本部付の第11分団として平成24年7月に発足し、平成27年11月1日現在18名の団員で活動しています。これまでは消防団行事の運営補助や、市内行事での防火啓発に関する広報などを主な活動としてきましたが、発足から約三年が経過し、組織としての団結力や向上心が一層強くなってきたことから、今年度は活動の幅を広げることを目的とし、全11分団員の応急手当普及員資格の取得を大きな目標として掲げました。昨年度までに資格を取得した7人に加え、今年度も多くの団員が資格の取得に向けて講習を受けています。

## 6 まとめ

平成26年度当初には過去最低となった消防団員数も、消防団員確保の取り組みや機能別団員制度の導入を受けて、平成27年8月1日現在では30名以上の増となる527名まで増加し、この結果、消防団員の増加率が高かった消防団として、高市早苗総務大臣より感謝状を賜うことができたことは、本市消防団の今後の発



防災フェア2015 総合防災訓練

展や更なる団員確保に向けた非常に大きなモチベーションとなっています。

また本市消防団は、操法大会の実施や日常の器具点検等はもちろんのこと、市内各地区で行われる防災訓練に消防団員が出動し、消防ポンプ操法の展示を始め、水消火器やAEDの使用法の指導なども行い、地域の方々に愛される消防団を目指して日々活動しています。

大災害が発生した際には、地域の方々との結びつきが何よりも強い力となって人々の支えとなることから、消防団員と地域住民がより一層近い存在となれるよう、また消防団員が地元を守る大きな力であるという誇りを持てるよう、今後も高い意識を持って消防団活動に取り組んでいきます。



水防工法の習得

# 「大地震に向けて、自助力向上をめざし」

愛知県名古屋市杉村消防団

名古屋市は16の行政区に分かれており、全市の小学校通学区域（学区）を基本にそれぞれ消防団が設置され、全市266消防団、総勢6,820名（定員）で形成されています。

杉村学区は、名古屋市の北の玄関である北区の南部に位置し、空襲で焼け残った木造建築物が林立する下町です。

面積は49.4 k m<sup>2</sup>、人口は約6,500人の杉村学区で、いざ大地震が発生すれば、多くの家屋が倒壊し、火災が広がってしまうかもしれません。こうした大規模災害においては、公署による消火や救助活動（公助）には限界があります。そのため、住民自らを助け（自助）、近隣が互いに助ける（共助）ことが重要であります。

杉村消防団では、日頃よりポンプ操法訓練等を実施すると共に、学区の住民を対象に自主防災訓練の指導をしています。今年も6月7日に、自主防災訓練において消防団員が住民400名以上に対して積極的に訓練指導をするなど、地域の自助力向上の指導に努めています。



自主防災訓練

# 第31回日中消防協会定期協議会

(公財)日本消防協会

平成27年11月9日(月)東京都港区のホテルオークラにおいて、日本消防協会から秋本会長以下10名、中国消防協会から陳会長以下6名が出席し、第31回日中消防協会定期協議会が開催されました。



はじめに、秋本会長から中国消防協会代表団来日の歓迎の挨拶及び日中消防友好のための尽力に対し敬意を表し、今後も引き続き両国が友好的な協力関係を築くことが、両国消防の発展、更にはアジア、世界の消防の発展に繋がる旨の挨拶がありました。

定期協議会は、開催国である日本消防協会の秋本会長を議長に選出して行われ、提出議題について議事が進められ、議題は全て両国にて合意されました。協議結果は以下のとおりです。

## 1 第32回日中消防協会定期協議会の開催について

- (1) 開催日程 平成28年6月下旬を予定
- (2) 開催場所 中国

## 2 第30回中国消防視察団の派遣について

- (1) 派遣時期 平成28年(第32回日中消防協会定期協議会の時期に合わせて派遣)
- (2) 視察場所 今後、中国消防協会と協議して決定する。

## 3 2015年度中国消防研修視察団について

2016年2月22日から3月7日までの15日間の日程で実施予定

以上の議題のほか、2016年度に日本消防協会が企画検討している「地域防災と消防団」をテーマにした国際シンポジウムへの中国消防協会の参加意向や両国消防協会の業務内容などについて情報交換が行われました。



# 第7回日中韓消防協会会議

(公財)日本消防協会

公益財団法人日本消防協会は、平成21年から中国消防協会及び韓国消防安全協会とともに年に1回の日中韓消防協会会議を開催し、友好交流を図っています。

今年度の日中韓消防協会会議は、平成27年11月10日(火)に、中国消防協会から陳会長以下6名、韓国消防安全協会から金会長以下5名の各代表団を迎え、日本消防協会からは秋本会長以下10名が出席し、東京で開催しました。

会議では、秋本会長を議長として、各国の消防の動向等について情報交換を行いました。議題は次のとおりです。

(議題)

- 1 最近の消防の動きについて(日本消防協会)
- 2 青少年の消防安全教育について(中国消防協会)
- 3 防火管理者に対する消防教育について(韓国消防安全協会)

来年度の第8回日中韓消防協会会議は、韓国で開催することで合意しました。



日本消防協会 秋本会長歓迎挨拶



中国消防協会 陳会長挨拶



韓国消防安全協会 金会長挨拶

# 第29回中国消防視察 「内モンゴル自治区」

(公財)日本消防協会

日本消防協会では、中国消防協会のご協力のもと毎年度中国の消防事情視察を実施しています。本年度は、秋本会長を総括団長とした総勢8名の調査団により、平成27年8月17日(月)から24日(月)までの8日間、内モンゴル自治区の視察を行いました。内モンゴルは中国の北部、ロシアやモンゴル共和国に隣接し、中国行政区の中で最も長い東西2,500キロにわたる広さを持ち、総面積118万平方キロメートル(日本の3倍)です。人口は約2,500万人で首府はフフホト市(約290万人)です。かつて草原を中心とした農業・畜産業主体の地域でしたが、豊富な石炭、鉄鉱石等を活かし経済発展をしている地域です。



内モンゴル自治区

内モンゴル自治区には、公安部消防部隊と一般民間人や企業が消防活動を担う消防隊があります。日本の常備消防にあたる公安部消防部隊の組織は、総隊(モンゴル自治区全体)・支隊(100万人以上等人口の多い都市・地区)・大隊(一般の都市)・中隊(支隊・大隊の管轄下の消防組織)で構成されます。なお、公安部消防隊の一般の隊員は2年の兵役として消防任務に従事し、その中から上位の階級へ隊員が選抜されていきます。幹部職員は常勤の消防隊員となります。

## 【シリンホト市 草原119 騎馬消防隊】

内モンゴル自治区シリンホト市(約27万人)では、市中心から車で1時間半ほど郊外の草原地区の村で騎馬消防隊(通称、草原119)を視察しました。この草原119騎馬消防隊は、シリンホト市消防局の訓練指導を受け、7年ほど前に中国初の草原の自衛消防隊として結成されたもので、現在、遊牧民等からなる約3,000人のボランティア隊員が所属し、草原放牧地帯の安全の向上に貢献するとともに消防に関する広報・知識の普及も行っています。

冬は-20℃を下回る地域で、緑の草原の季節は短く、春(3月から5月)と秋(10月から11月)に火災が起きやすいとの説明でした。年間500件程度の火災が発生していますが、草原火災の原因の主なものは煙草等火気の不始末とのことでした。草原119騎馬消防隊の地区センターは26か所あり、隊員の携帯電話に連絡が入り出場することとなっています。騎馬消防隊は現場で消火器や送風機による初期消火活動、公安部消防部隊と協力して防火フェンスによる延焼防止活動を行っています。私たちは、騎馬消防隊が騎乗訓練を行っている様子を視



察しましたが、訪れた施設は、役場機能、会議室、地域の消防隊の組織・使用資機材の展示資料室、郷土の偉人資料室等を備え、小さいながらも充実した施設でした。



騎馬消防隊 訓練の様子



消防展示室（消火器・送風機等）



記念品（法被）の贈呈



記念撮影

### 【シリンホト市 消防支隊 特勤中隊】

シリンホト市内にある救助専門の特勤中隊（消防隊）を視察しました。視察を行った中隊は救助に特化した中隊で、特に交通事故に対する車両・資器材が充実していました。

勤務している隊員は33人で全員が兵役制です。隊員は、施設内に寝泊まりし、訓練・現場活動を行っており、訓練等の成績評価が廊下に張り出され、切磋琢磨して技術の研鑽習熟に努めているとの説明が印象に残りました。災害119通報はシリンホト市で一括受信された後、管轄する中隊へ転送されます。転送される中隊の通信指令室には2名の隊員が常駐し、迅速に現場出動を行うとのことでした。



中隊消防庁舎



記念撮影



消防車両



車両積載資器材



資器材備蓄庫



通信指令室

### 【フフホト市 内モンゴル消防博物館】

フフホト市の内モンゴル消防総隊施設内にある内モンゴル消防博物館を視察しました。

館内には1973年に確立された内モンゴル公安部消防部隊の歴史や過去に使用していた資器材などが数多く展示されています。

古くは清時代に使われていた人力放水車、1914年に民間企業の輪番制の自主防災組織がスタートして使用されていた消防資機材、昔使われていた空気呼吸器、今も住民啓発に使われている「消防かるた」などが展示されています。

展示室の出口近くのコーナーに内モンゴル公安部消防部隊の歴史の中で殉職された消防隊員の方々の遺影が展示されていました。この中に、シリンホト市でお会いした同市消防トップ(消防支隊長)のお父様もおられるとの説明を受け、内モンゴル消防人の志に触れた思いでした。



内モンゴル消防博物館



清時代の人力放水車



自衛消防隊が使用した資器材



空気呼吸器



消防かるた



殉職職員の慰霊展示

### 【ポウトウ市 消防中隊 消防教育館視察】

ポウトウ市内(約210万人)の消防中隊及び消防教育館を視察しました。

消防中隊の管轄地域は、建物が密集しているにも関わらず、消火栓・貯水槽等消防水利が

充足していないことから、この中隊には日本の数倍の大容量のタンク車が6台配備されています。その他に車両には、送風車、給油車、多目的車などがあります。火災の規模によってタンク車の出動台数を決定しています



ポウトウ市 消防中隊正門



記念撮影



庁舎内の視察



送風車



給油車



車両積載資器材

ポウトウ市消防中隊の同一敷地内に消防教育館が併設されています。

この施設は2011年に完成した内モンゴル自治区内で初めての消防に対する普及啓発を図るための施設で、一般公開され、学校教育にも大いに活用されているとのことでした。消防に対する知識・興味を持っていただけるように様々な工夫がされ、体験学習ができるようになっています。



消防教育館エントランス



写真・モニュメント展示



資器材展示



複数の体験ブース

# 第15回全国中学生 「防火防災に関する」作文コンクール結果

生活協同組合全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、毎年全国の中学生を対象とした「防火防災に関する」作文コンクールを行っています。

各都道府県の支部から、「地域を守る消防団」を作文のテーマとし、選抜された作品40点の中から、当共済会において厳正な審査を行った結果、最優秀賞には富山県射水市立新湊南部中学校2年加藤 歩乃さんの作品が選ばれました。

佳作以上の作品は、「防火防災に関する」作文コンクール入賞作品集にして、全国の消防機関等へ配布いたします。

皆様のたくさんのご応募ありがとうございました。

## 最優秀賞（1名）

富山県	射水市	射水市立新湊南部中学校	2年	加藤 歩乃	さん
-----	-----	-------------	----	-------	----

## 優秀賞（2名）

岩手県	大槌町	大槌町立吉里吉里中学校	3年	平野 乃彩	さん
-----	-----	-------------	----	-------	----

茨城県	牛久市	牛久市立牛久第二中学校	1年	中山 晃汰	さん
-----	-----	-------------	----	-------	----

## 佳作（8名）

宮城県	登米市	登米市立東和中学校	3年	佐藤 太洋	さん
-----	-----	-----------	----	-------	----

茨城県	利根町	利根町立利根中学校	1年	永田 万花	さん
-----	-----	-----------	----	-------	----

三重県	伊賀市	伊賀市立緑ヶ丘中学校	1年	花本 菜衣	さん
-----	-----	------------	----	-------	----

香川県	高松市	香川大学教育学部附属高松中学校	3年	松下 由佳	さん
-----	-----	-----------------	----	-------	----

愛媛県	今治市	今治市立大三島中学校	3年	田村 芽衣	さん
-----	-----	------------	----	-------	----

福岡県	福岡市	福岡市立松崎中学校	3年	田中 瑠花	さん
-----	-----	-----------	----	-------	----

熊本県	苓北町	苓北町立苓北中学校	1年	寺岡 海	さん
-----	-----	-----------	----	------	----

鹿児島県	薩摩川内市	薩摩川内市立川内南中学校	2年	坊野真津里	さん
------	-------	--------------	----	-------	----

## 「身近な消防団」

富山県

射水市立新湊南部中学校 二年

加藤 歩 乃

私が八才の頃、私の母は射水市女性消防団に入団しました。祖父も当時地元塚原消防団の分団長として活動していたので、私にとって「消防団」とは幼いころから身近にあるものでした。

しかし、実際何をしているのかということを知ったのは、ずい分大きくなってからでした。

祖父は男性団員として実際火災が起きた時には仕事を抜けて現場に駆けつけ、地域の防災訓練ではいざという時に備えて、放水訓練などを行っています。

一方、母の活動は「消火活動」よりも「火災予防活動」が中心で、地域の火災予防や地域防災などに関する広報・啓発を行っています。女性の視点に立ち、女性特有の優しさ、きめ細かさを活かして、地域の方々の安心・安全を確保することを目的とし、活動を行っています。

活動しているところを見ても、積極的に声をかけ、いつも笑顔で地域の方々と接している印象があります。制服姿もかっこよく、少し偉い人にも見えます。

でも母は家では普通の、少し変わっていますが明るく優しいただのお母さんです。消防に関する知識を持たず、入団し

てからいろいろ研修を受けて身に付けたそうです。特別に選ばれた人になるのではなくて、地域を守りたい、地域に何か役に立つことを少しでもやってみようと思った人が進んで行動しているのだと思います。誰にでもチャレンジ精神があれば、消防団の仲間入りをすることが出来るのだと思います。

そんな活動の中で団員同士が仲良くなり、楽しく活動を続けていられるといいます。祖父も消防団の仲間と仲良く、引退した後もずっと交流を続けています。

母の活動ノートに『ボランティア活動は金持ちにはなれないかもしれないが、心は豊かになる』とメモが書いてありました。自分も中学校に入ってからあいさつ運動や清掃活動など、いろいろなボランティア活動に参加しました。作業中や活動中は大変だと思ったりありますが、終わった後に「今日はありがとう」とか「助かったよ」と声をかけられると、「やってよかった」と思う経験が多くあります。そういうことがやりがいとなって頑張っていけるのではないかと思います。

この作文を通して私は改めて「消防団は地域を守る、カッコいいヒーローだ」と思いました。母や祖父のように地域を守るために働き、心の豊かな人に私はなりたいです。

# 堺市美原消防団放置ボンベの講習会と搜索活動 ～放置ボンベ撲滅事業への取組～

大阪府 堺市美原消防団

## 消防団創設以来、初の試み！

堺市美原消防団は、高圧ガス保安活動促進週間（毎年10月23日から29日）に伴い、美原区内の放置ボンベ撲滅のため、下記のとおり講習会と搜索活動を実施しました。

- 日時と場所 (1) 放置ボンベ講習会  
10月25日(日) 午前9時00分から10時00分まで  
美原消防署3階 講堂  
講師：岡本 真也(消防局予防部危険物保安課 保安係長)  
(2) 放置ボンベ搜索活動  
10月25日(日) 午前10時00分から正午まで  
美原区内一円
- 実施に至る経過 当消防団構成員の特色として、「地域密着の自業者が多い」、「自治会長など地区のリーダーやその経験者が多い」ため、地域コミュニティに深く溶け込んでおり、情報収集能力も高く、効果的な放置ボンベの搜索活動につながることを期待されることから本事業を実施することになりました。
- 結果 放置ボンベを発見・回収することはできませんでしたが、放置ボンベ発見時の対応を身につけることにより、今後、発見した際の安全な処理につながると考えています。
- その他 搜索を行った団員は、「今回の講習で、放置ボンベの危険性を知ることができた。今後も放置ボンベを発見することがあれば、迅速・適切に処理するよう心がけたい。」と述べていました。

### 放置ボンベについて

長期間放置されていた高圧ガスボンベのこと。腐食等により、破裂する恐れがあるため発見時は触らずに大阪府では消防へ連絡してもらうよう協力を求めている。

なお、放置ボンベの破裂により大阪府内でも死傷事故が発生しており、住民の安全・安心のために早期回収が求められている。



放置ボンベ講習会の様子



放置ボンベ搜索本部の様子



放置ボンベ搜索活動の様子

問い合わせ先 担当課 堺市消防局 美原消防署 担当者 北村、森田  
直通 072-362-0119 FAX 072-363-1414

# セルフスタンドにおける安全な給油について

総務省消防庁危険物保安室

## ■セルフスタンドの現状

ドライバーが自ら給油を行うセルフサービス方式の給油取扱所（セルフスタンド）は平成10年4月から認められた比較的新しいガソリンスタンドの形態です。それまではドライバーが自ら給油を行うことは認められていませんでしたが、一定の安全対策を講じれば従来のガソリンスタンド（フルサービススタンド）と同等の安全性を確保することができることが確認され、セルフスタンドが認められることとなりました。

近年、ガソリンスタンドの施設数は減少傾向にあります。このことは対照的にセルフスタンドは増加しています（図1参照）。

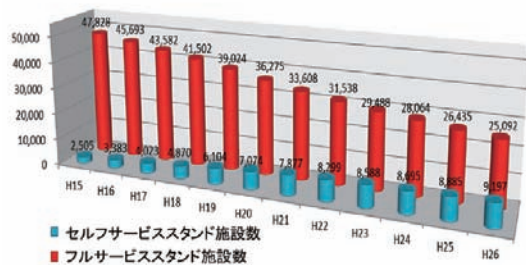


図1 ガソリンスタンドの施設数

## ■セルフスタンドの安全対策の改正経緯

セルフスタンドにおいて給油中に自動車の給油口付近で静電気が原因と考えられる火災が発生したことを受け、「火気厳禁」「給油中エンジン停止」「ガソリンの容器への注入禁止」など保安上必要な事項を記載する注意書きに「静電気対策に係る事項」を加えるよう、平成13年に各消防本部に通知しました。

また、セルフスタンドの火災発生割合がフルサービススタンドに比べると高いことから、平成19年には危険物の規制に関する規則（昭和34年総理府令第55号）を改正し、給油ノズルは、静電気を有効に除去することができる構造とすることや給油中に吹きこぼれたガソリンが顧客に飛散しない措置を講ずること等が規定され、セルフスタンドの設備に関する安全対策を強化しました（表1及び図2参照）。

表1 給油取扱所1万施設あたりの給油中における火災事故発生割合

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
セルフスタンド	24.0	11.8	7.5	12.3	4.9	9.9	3.8	3.6	5.8	3.5	3.4	2.2
フルサービススタンド	0.2	0.7	0.7	0.7	0.3	0.3	1.2	1.9	0.7	1.1	0.4	1.2

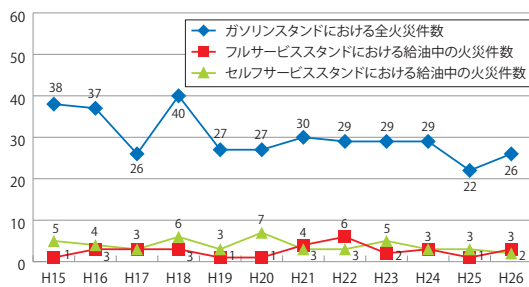


図2 ガソリンスタンドにおける火災件数

## ■給油中の主な注意事項

セルフスタンドでドライバーが給油する際には、次の点に十分ご注意ください。

- ・静電気除去シートなどにより静電気を十分除去すること。
- ・車に給油する油種を十分に確認すること。
- ・ライター、たばこ等の火気は使用しないこと。
- ・ガソリンの容器への小分けは行わないこと。
- ・自動車又は原動機付自転車以外（例：水上バイク等）への給油は行わないこと。

その他、計量機に表示されている給油方法、注意事項を必ずお読みください（図3参照）。またご不明な点があれば、計量機付近に設置されているインターホンでセルフスタンド従業員へお問い合わせください。

なお、下記の消防庁ホームページに関連情報を掲載していますので、これらを参考に安全に給油するようお願いいたします。

総務省消防庁：セルフ給油に関する注意事項  
[http://www.fdma.go.jp/html/new/self\\_atten.pdf](http://www.fdma.go.jp/html/new/self_atten.pdf)  
 総務省消防庁：ガソリン等危険物の事故防止について  
<http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/gasoline/keihatu.html>



図3 計量機の表示例

問い合わせ先 消防庁危険物保安室危険物施設係 金子、横山  
 TEL: 03-5253-7524

うちの

# 名物団員



福島県

郡山市消防団 湖南地区隊長

増子 広和



増子地区隊長は、生業の傍ら、消防団活動に30年以上従事するとともに、地域では、福島県指定重要無形民俗文化財「湖南の会津万歳(あいづまんざい)」の保存会会長として、伝統芸能の継承活動にも取り組んでいます。髭の隊長として知られ、その誠実な人柄から部下団員の信望も厚く、また、宴席では、自ら場を盛り上げる旺盛なサービス精神の持ち主でもあります。今後も地域の安全・安心と火災ゼロに向けた活躍を期待いたします。



石川県

穴水町消防団 副団長

米田 直樹



米田副団長は左官業を営む47年目のベテラン職人です。仕事をこなす中、イベント司会等、様々なジャンルで活躍する他、6歳から和太鼓を叩き、(公社)太鼓連盟理事を20年努め、所属する長谷部太鼓保存会は祭りの他、海外でも3度出演し、多くの方々に魅了しています。長谷部太鼓の由来は、戦国時代に戦勝を表す祝太鼓として叩かれ、その響きは今なお米田さん達の手により穴水町の伝統文化として守り続けられています。







齋理 武豊  
齋理 勝春

与謝野町からは、最強の兄弟コンビを紹介します。普段は風貌も性格も違う二人ですが、消防団活動のポンプ車操法となると人が変わったように息のぴったり合う、分団を代表する二人です。

兄の武豊団員は平成26年に、弟の勝春団員は翌年の平成27年に分団を代表する操法チームの要員を務

めました。

高校時代に陸上部で鍛えたスピードとスタミナを活かし、兄弟そろってポンプ車操法の3番員を務め、今年の町長査閲では、兄の武豊団員が弟の訓練指導員を担当し、勝春団員は6月の町長査閲において素晴らしい操法訓練披露してくれました。

いつも若手の中心にいる両団員が、今後の与謝野町消防団を盛り上げてくれることを期待しています。

樽口 知加



三田市消防団に平成24年1月に誕生した、三田市消防団女性班樽口班長を紹介します。

樽口班長(三田の藤原紀香)は、FMラジオのDJやイベントのMC、またマナー講師として活躍しています。数ある講習会の中でも、話し方やその立ち振る舞いを

研修する「女子力アップ講座」は大好評で大人気の講座です。

救急講習会などでは、持ち前の明るい性格と透きとおった声を武器に、救急講習会の指導を受講者に分りやすく講習されています。これからも樽口班長の活躍に期待しています。



木津田 礼



「霧の海」と「ぶどうのピオーネ」で知られる広島県三次市から日本一のワインを作るぶどうを育てた消防団員を紹介します。

木津田副分団長は、ぶどう園を経営されており、「愛する郷土で自慢できるものを」との気持ちで、ワイン用のぶどうの栽培に取り組んでこられました。

このほど、10年の試行錯誤と情熱を注ぎ込んだぶどうを使って広島三次ワイナリーで製造された「TOMOEOマスカット・ベリーA木津田ヴィンヤード2013」が「日本ワインコンクール2015国内改良等品種赤部門の金・コストパフォーマンス賞」受賞となりました。



# 消防団の広場

## 広島県 ポンプ操法から得た「絆」

福山市消防団  
芦田西分団 分団長  
市川 義宜



広島県消防ポンプ操法競技大会

私たちが住む福山市は広島県の南東部に位置し、瀬戸内海に面し温暖で暮らしやすい地域です。市全体で「100万本のばらのまち」をめざしており、市内のあらゆる所でばらの花を見ることができます。

福山市消防団は、1本部・8方面隊・60分団・団員数2864人で構成され、私が所属している芦田西分団は4班で構成された団員数50人の分団です。

9月5日に開催された広島県ポンプ操法競技大会に芦田西分団が福山市消防団の代表として出場しました。私が入団してから今回が2度目の県大会出場でした。

今大会は、福山市消防団の県大会7連覇がかかっていたこと、また2016年に福山市市制施行100周年を迎えるに当たり、節目の年に全国大会で優秀な成績を収めることが期待されていることから、必ず優勝しないとけないという重圧があった中、選手と補助する団員の頑張りで見事に優勝を成し遂げることができました。

県大会にむけて、福山市消防団伝統の【規律】と【強固な団結力】をスローガンに、1月中旬から4月末まで週2回基礎体力の強化、5月から6月末までは週3回分団で自主訓練を行い、7月から大会まで週3回午後8時から午後10時まで、消防団長を中心に副団長、団本部訓練指導員の指導の下、大変厳しい訓練を行いました。

大会までサポートを頂いた団員、技術・身体のケア・メンタル面での指導を頂いた団本部及び消防局職員の方々、温かいご声援を頂いたOB・後援会の方々、そして何より家族の支えがあったからこそこの優勝だったと思います。

訓練に携わって頂いたすべての人に感謝の気持ちを忘れず、訓練を通して深まった団結・絆を胸に、若年団員の指導、また消防団活動はもとより、地域社会に微力を尽くし、これからも地域防災の防人として全力を傾注します。

2016年福山市市制施行100周年に華が飾れるよう、全国制覇に向けて頑張ります。



消防ポンプ操法競技の様子

平成27年度 全国統一防火標語

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

## 1月の日本消防協会関係行事

1月12日(火)～15日(金) 第42回消防団幹部特別研修  
1月29日(金) 全国消防殉職者遺族会(理事会)

## 編集後記

山や街路が紅葉から落葉へと移り変わり、寒さに耐え春の芽吹きに備える季節となりました。いよいよ2015年も終わりを告げようとしています、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、研修生として東京に赴任してから早や8か月、色々な新しい機会に出会うことができました。それと同時に全く初めての経験も多く、自分の「ダメ」なところにたびたび気づかされました。そのときは、かなりショックを受け、言い訳やごまかしもしたくなりましたが、しばらくするといつも、やっぱり変わらなくてはという衝動に駆られます。「ダメ」は、あきらめずに努力すれば「もっと良くできる」ことだと気づかせてくれた環境に感謝します。

この1年間、「日本消防」をご愛読いただきありがとうございます。来年もより良い誌面づくりに努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

消防団員の皆様には、これから、年末年始の警戒活動、新春の出初式などのさまざまな地域の行事が予定されていることと存じます。どうぞご自愛いただき、良いお年をお迎えください。

(M.M)

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,448円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。 soumu@nissho.or.jp

## お詫びと訂正

日本消防平成27年11月号掲載の「第22回全国女性消防操法大会」4ページの開会宣言の写真は、正しくは吉岡伸子様でございます。表記に誤りがございましたので、関係各位の方々に對しまして深くお詫びを申し上げ、訂正させていただきます。



開会宣言

(吉岡伸子 岡山県婦人防火クラブ連絡協議会会長)

印刷所

千葉市稲毛区山王町一〇二一五

株式会社白樺写真工芸

電話〇四三(423)一一〇(代)

編集人 武居 丈二  
発行所 (公財)日本消防協会

東京都港区虎ノ門二一九一十六  
電話 〇三(353)一四八(代)

月刊「日本消防」第六十八巻第十二号  
平成二十七年十二月五日印刷  
平成二十七年十二月十日発行

# 消防団員・消防職員の皆様の火災共済

消防団員  
消防職員  
ならどなたでも  
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

風水雪害等共済金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損) 火災共済金375万円のお支払い **1500倍補償**

**B型火災共済** (消防団 消防本部) 毎に皆で加入

キャンペーン期間中B型火災共済に加入しますと、テントを消防団等に配布します。

(加入者100人以上または、掛金10万円以上が対象)

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害  
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。



(三方の横幕も付属します。)

お支払  
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-3503-1439  
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

## 消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%) + 配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万円(ゆうちょ  
銀行は五千円)から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金(6種類)又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金(脱退一時金)  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

(お問い合わせ先) 公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494

平日 9:00~17:00